

中国における民族表象のポリティクス
～ミャオ族の張秀眉像建造運動を例にして～

2003. 4. 26 曾士才 仙人の会にて

I 民族表象に関する先行研究（一部分）

少数民族側の自己表象に関するもの [松本 1987][曾 1992][兼重 1998][楊 2002]
漢族側からの他者表象に関するもの [Blum1992] [坂本 1995][藤森 1998]
民族誌のあり方に関するもの [張 1999]
民族の創出に関するもの [鈴木 1993][山路 2002]

II 張秀眉像建造運動

張秀眉～咸同起義の大元帥。台拱庁抱効板凳下寨（現在の台江県南省郷板凳下寨）出身。
本名李雄波（Xongt Bod）。張秀眉は Zangb Xongt Mil（唇の扁平なハンサムなシ
ョン）というあだ名。雷公山烏鴉坡（or 烏東山）で生捕られる。1822～72 年
図 1 参照

楊大六：将領。張秀眉の最も親密な戦友。台拱庁革一出身。2 歳で父死亡し、母が丹江庁
郎徳下寨の陳家に再婚。楊大六は Yangf Das Luf（死ぬほど凶悪な）というあだ名。
雷公山烏鴉坡（or 烏東山）で張秀眉とともに生捕られる。

<苗王一抵抗の歴史と記憶>

抵抗のクライマックスー咸同起義（1855～1872 年） 表 1、図 2 参照

民族英雄としての張秀眉の記憶 資 1 参照

cf. 村松一弥編訳『苗族民話集』平凡社（東洋文庫）1974 年

<張秀眉の名前の表記>張臭謎、張臭密、張秀密、張秀謎 → 張秀眉（WTF）

cf. 徐家干『苗疆聞見録』1878 年（光緒 4）の記述 資料 2 参照

<張秀眉一族の後日談>

舅子（妻の兄弟）の裏切り

妻と子（九兄 Jef Xongt 9 歳）の境遇 cf. 楊大六の妻と子（4 歳）殺害される

3 代目子孫（曾孫）Jangx Bof 民国時代、貴州省主席楊森に重用され、漢族の嫁（第
二夫人）あてがわれる 第二夫人の自殺

<張秀眉像建造運動>

「張秀眉の英雄的な業績を追慕することにより、民族の自尊心、自信とプライドを強め、
民族大団結を促進する」「“苗疆腹地”の観光事業を推し進め、地域経済の発展に寄与する」
（「興建張秀眉塑像記念館工程唱議書」）

1988 年 11 月 貴州省苗学会（旧称：苗学研究会）結成 会員数 2307 名（02 年現在）

常務副会長 L T G 氏

ミャオ族は勤勉で、純朴な民族；支配者階級は民族英雄を侮蔑し、賊扱い
民族英雄の顕彰することにより後進を教育するという考え

貴州省の省都・貴陽に張秀眉の塑像、黔东南自治州の州都・凱里に蚩尤の

塑像を建造するという考え

1997 年 5 月 台江县に張秀眉塑像籌備領導小組成立（98 年 9 月現在で 21 名、事務局 7 名）
全县規模の運動であるが、民間が主導し、党や政府が支持する形をとる
小組の職務内容①資料収集（約 2 か月）、②募金活動（11 万元）、③場所選定

cf. 顧問：張明達（元貴州省政治協商會議常務委員、台江县政治協商會議副主席）、
組長：潘亮（台江县縣長）
副組長：張建武（台江县人民代表大會主任）
劉耀密（台江县政治協商會議主席）
陸景川（台江县共產黨委員會副書記）

cf. 小組の職務内容

- ① 資料収集～起義の將領の故郷、故居；起義の遺址や戦跡の訪問調査
- ② 募金活動～台江县内の幹部；貴陽では貴州省苗学会が；米国のミャオ族
- ③ 場所選定～張秀眉の故郷である台江县の県城の入口に決定。台江县のシンボルとしての意味合い

1999 年 4 月 「興建張秀眉塑像記念館工程唱議書」作成

1999 年上半期 張明達と事務局職員・熊克武が湖南省桑植県にある賀龍將軍像、湖南省会同県にある粟裕將軍像、貴州省黔西南自治州安龍県にある王囊仙像を見学

1999 年 7 月～8 月 起義の將領の故郷、故居（台江县内に限定）；起義の主要な戦跡を調査、資料収集

1999 年 6 月 座談会開催。張秀眉塑像の形象を決定 2 つの意見 張明達 vs W T F

2000 年 3 月 張秀眉塑像およびトーテムポール落成
板凳下寨の 200 人が祝宴（ブタ 1 頭）、盛装して木鼓舞

2002 年 3 月 秀眉広場の地面工事完成

2002 年 9 月～秀眉広場で週末ごとに「苗族文化大舞台」の活動

2002 年 12 月 秀眉広場の觀覽台完成

V D 調査ビデオ

<張秀眉の肖像> 図 2 参照

① Y Z P 氏（1969 年生、台江县出身、台江師範卒） 図 3 参照

張秀眉の 5 代目子孫がモデル（末っ子）、明代の武將のイメージ（鉄兜、鉄鎧）

←張明達、潘亮、L T G ら支持

② W T F 氏（1926 年生、台江县出身、貴州民族学院民語系卒）

辮髪を口にくわえ、牛刀を持つ

③ Y P D 氏（1942 年生、黄平県出身、中央民族学院芸術系卒）写真参照

ターバン、軍刀、角笛

背景が雷公山である点は①～③とも共通

cf. 台江县地方志編纂委員會編『台江县志』貴州人民出版社 1994 年

〔参考文献〕（言及順）

- 松本光太郎 1987 「『漢族の子孫』としての少数民族」『民族学研究』52(3):246-257
- 曾士才 1992 「揺れるエスニック・シンボル—浙江シェー族の槃瓠伝説を例にして—」『日中文化研究』3:94-100, 勉誠社
- 兼重務 1998 「エスニック・シンボルの創成—西南中国の少数民族トン族の事例から—」『東南アジア研究』35(4):132-152
- 楊志強 2002 「“苗女”論争,及びその背景—80年代初期におけるミャオ（苗）族知識人層の民族的“覚醒”について」『中国研究月報』Vol.56No.9
- Blum, Susan D 1992 *Ethnic Diversity in Southwest China: Perceptions of Self and Other. Ethnic Groups* 9(4):267-279
- Blum, Susan D. 2000 *Portraits of 'Primitives': Ordering Human Kinds in the Chinese Nation*. Rowman, USA
- 坂本ひろ子 1995 「中国民族主義の神話—進化論・人種観・博覧会事件—」『思想』3
- 藤森猛 「中国映画における“民族化”の一面—新中国成立後の少数民族映画の推移」『中国21』3:99-120（愛知大学現代中国学会）
- 張兆和 1999 「“押しつけられた表象”から“自己表象”へ—民国期中国・苗族知識人にみるエスニック・アイデンティティの模索と実践」末成道男編『中原と周辺—人類学的フィールドからの視点』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 331-359 頁
- 鈴木正崇 「創られた民族—中国の少数民族と国家形成」飯島茂編著『せめぎあう「民族」と国家—人類学的視座から』アカデミア出版会
- 山路勝彦 「土家族とは誰か：中国少数民族の創出と再編」『関西学院大学社会学部紀要』92号
- 武内房司 「太平天国期の苗族反乱について—貴州東南部苗族地区を中心に」『史潮』第12号、1982年
- 谷口裕久 「民族集団の動態とエスニシティ—貴州省東南部ミャオ族の事例から」『社会学雑誌』第7号、1990年
- 燕宝・苗丁翻訳『張秀眉歌』貴州民族出版社 1987年
- 楊光磊 『張秀眉起義資料彙編（上集）』黔东南苗族 族自治州文化局 1984年
- 楊光磊 『張秀眉起義資料彙編（下集）』黔东南自治州文学芸術界聯合会 2001年
- 貴州省編輯組編『苗族社会歴史調査』貴州民族出版社 1987年

